ＮＰＯ 市民団体と学生との交流会 第３弾

福島県 双葉郡（ふたばぐん） 富岡町（とみおかまち） 夜の森（よもり）公園の桜祭り

東日本大震災から７年

「原発避難」の現状と課題

－支援者の立場から－

復興ボランティア支援センターやまがた

（山形市松山三丁目／ http://kizuna.yamagata1.jp/）

ゲスト：結城健司（ゆうきけんじ）さん

７月６日（金）５コマ目（16時20分～17時50分） 山形大学 人社棟１階 **１０２教室**（参加無料）

「2011.3.11」は「原発震災」とも言われたとおり、震災ではなく放射能汚染によって人が住めない地域が生じるとともに、政府が避難指示を出していない地域からも人々が被曝を恐れて避難するという特殊な状況が生まれました。7 年をへて避難指示地域は狭められ、避難者むけの住宅支援も打ち切られつつあります。さらに今年 3 月には、福島県内の空間放射線量を測定している放射線監視装置（モニタリングポスト）について、原子力規制委員会が、避難指示地域の外にある約 2400 台を 2020 年度末までに順次、撤去する方針を決めました。いわば一種の“安全宣言”です。こうしたなか避難を続ける人たちは何に不安をもっているのか、支援者に求められているものは何かを、復興支援、避難者支援の活動を市民の立場からサポートする活動をされてきた「**復興ボランティア支援センターやまがた**」の**結城健司**さんにうかがいます。

関心のある方、ない方、学部・学年、大学を問わず、是非おいでください。

なお本交流会は人文社会科学部の講義「公共政策・地域課題実践演習Ａ２（旧：地域づくり特別演習（二））」の一環としておこなうものですが、未履修の方、他学部の学生、教員の方も大歓迎です。

問い合わせ先：**松本邦彦**（人文社会科学部 地域公共政策コース／電話 023-628-4250）